

■九州産業大学諫見研究室

代表者：亘 裕司（小金丸智文・榊 英貴・澤 優太郎）

団体所在地：〒813-8503 福岡市東区松香台2-3-1

☎092-673-5781（准教授・諫見泰彦）

E-mail：isami@ip.kyusan-u.ac.jp

URL：http://isami.flips.jp/

会員数：正会員38名（諫見研究室所属学生）

設立年月日：平成18（2006）年4月1日

テーマ 香椎◀まちの記憶>博物館

□ 活動の目的及びきっかけ

現在、副都心土地区画整理事業が行われている香椎（福岡市東区）のまちは、過去からある建物が壊され、新しいものが建てられて、かつての香椎の面影がなくなりつつある。こうしたスクラップアンドビルドの状況の中で、私たちはこの事業による行政先行取得地に注目して、香椎のまちの記憶を後世に残す一助となることを目的とした活動を、香椎商工連盟や福岡市住宅都市局をはじめとする関係団体の協力を得て実施した。

私たちは行政先行取得地に、設置と撤去が容易な単管パイプを使用した仮設のパビリオンを設置するための設計と施工を行った。その一方で画像や歴史資料などを収集して、まちの記憶として編集し、設置するパビリオンの内部において公開した。このパビリオンを拠点施設として、香椎のまちを博物館に見立てた一連のまちづくり実践活動「香椎◀まちの記憶>博物館」を、福岡県建築士会地域貢献活動助成事業として実施した。

□ 主な活動内容

1) パビリオンの設計

パビリオンは4つの展示棟とこれらをつなぐ回廊で構成されている。棟のひとつひとつが「まち」を表し、来場者が回廊を歩くことによってまちどうしが繋がっていることをパビリオンの形態で表現している。来場者の4本の動線によって囲まれたスペースでは自ずと交流が生まれる。来場者各々が持つ香椎のまちの記憶の語り合いを促進する場となることを期待できる。これは香椎副都心土地区画整理事業の方針に掲げられる活動核と生活文化核、それらの中間部に位置づけられる交流ゾーンによる「あれい構造」からイメージした。

またパビリオンの色彩は、骨組膜構造の屋根に葉を表す深い緑色、幹に相当する腰壁に落ち着いた茶色を使用した。これらは香椎に所縁のある綾杉（香椎宮の勅使通）をイメージしたものである。また壁面の幾何学的なデザインは、黒色の斜線列に対して朱色の斜線列を直交させ、歴史のある香椎のまちの記憶に新しい未来のまちづくりが重層して形成される、香椎副都心土地区画整理事業のイメージを表現したものである。

2) パビリオンの施工

パビリオンの施工では、躯体・壁面の仮施工を経て、足場仮設工事を専門とする有限会社四島組の技術支援を

受けた。私たちは設計に従い、まず主要な構造体として工事用足場に用いる単管パイプを架構した。次に木材を加工して製作した各棟の壁面を締め具であるクランプにより単管パイプに固定する予定であったが、骨組膜構造による屋根の取り付けのため十分なスペース確保できず、腰壁で壁面下部を支持し、結束バンドで壁面左右を固定する方法に変更した。一方、回廊の壁面は重量のため下部を接地させ、上部を屋根とビスで固定した。腰壁の裏側の添木は見栄えが悪く、すだれを使い目隠しとした。最後にペンダントランプを単管パイプの梁から釣った。

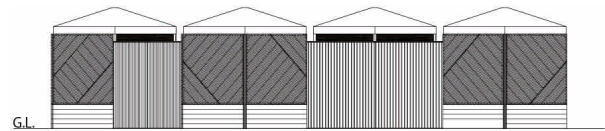


図1 南立面図 S=1:200

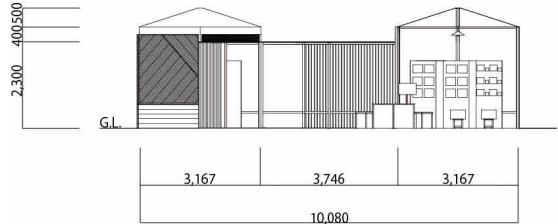


図2 断面図 S=1:200



写真1 躯体の仮施工



写真2 壁面の仮施工



写真3 建築物の内観



写真4 建築物の外観

□ 成果と課題

本活動では、パビリオンへの来場者を対象にアンケート調査、活動協力者を対象にヒアリング調査を行い、パビリオンの設置などに関する外部評価を実施した。アンケートには「(パビリオンに)来てよかった」「(パビリオンの展示を見て)懐かしかった」「またこのようなこと(まちの記憶を課題とした活動)を行ってほしい」などという本活動を評価する記述が多く、パビリオン来場者の心を動かすことができるなど、一定の成功を収めることができたのではないかと考えている。

本活動は、建築士の資格を有しない建築学科学生である私たちが、どうすればどこまでの建築物を建てることができるのかという挑戦でもあり、その過程は大変貴重な体験であったと振り返っている。支援していただいた福岡県建築士会会員の皆様に深く感謝を申し上げたい。

(社)福岡県建築士会 まちづくり委員会